

奈良県広陵町防災士NW総会 防災研修会(クロスロード) 開催報告

- I 日時：平成31年2月24日（日）15時30分～17時00分
- II 場所：広陵町総合保健福祉会館（さわやかホール）4階大会議室
- III 主催：広陵町防災士ネットワーク
- IV 講師：（ファシリテーター）NPO法人都市災害に備える技術者の会 理事長 伊藤東洋雄
（コメンテーター）NPO法人都市災害に備える技術者の会 副理事長
（神戸防災技術者の会） 片瀬範雄
- V 対象者：広陵町防災士ネットワーク 計60名
- VI クロスロードゲーム次第
15時からの広陵町防災士ネットワーク総会に引き続き、クロスロードゲームを15時30分～17時まで行った。
- VII クロスロードゲームの問題とコメント内容
- 第一問 あなたは— 川沿いの集落の住民
- ・母(80歳)、妻、小学生の子供2人の5人家族。
 - ・激しい雨が降り続けている。
 - ・今、洪水の危険があるとして、集落に避難勧告がでたことを防災無線で知った。
 - ・しかし、深夜12時。
 - ・今すぐ避難を始める？
- 第一問のコメント
- ・岩手県岩泉町（介護施設での避難体制の不備による犠牲、施設長が避難準備情報の言葉の勉強不足）の災害事例
 - ・釜石東中学校と鶴住居小学校生徒の避難行動（日頃の訓練の大切さと片田先生の指導・言葉）
 - ・福島県浪江町 請戸地区小学校→犠牲者ゼロ（鶴住居の事例以外に校長先生や先生の備えのあり方についての認識により、多くの学校で犠牲を免れている）
- 第二問 あなたは、防災士
- ・小さな町で土砂災害があったと、報道されている。
防災士として、直ぐボランティア活動をするため、現地に行った。
 - ・しかし、ボランティアセンターは開設されていない。
 - ・それでも、被災者の家に押しかけて泥かきを始める？ それとも帰る？
- 第二問のコメント
- ・ボランティア活動は変わってきているか（NPO活動の活発化による、被災規模に関わらない多数の押しかけボラの統合的コーディネーターの必要性）
 - ・被災者が発災直後に望むことは（泥かき報道が多いが、心のケアでないか）
 - ・救援物資の配布は平等に行き渡らせる（お涙頂戴的な物資要求に捉われず、行政への送付を）
 - ・ボランティアによるサービス炊き出し（心の安らぎに繋がる）
 - ・仮設住宅でも周辺自治会との連携（ボラが全てでは無く、同じ住民同士の非被災者と被災者の心に繋がり大切さ）
 - ・最近のボランティア活動について（1泊4日のボラで自己満足で良いのか、全てを自己の費用では無理。寝る場所、多少の食事支援で長期滞在型ボラにより、被災者と心

の通じ合いが大切)

- ・熊本地震、九州北部水害、広島・愛媛・岡山豪雨水害（何処までボランティアに力仕事をして貰うのか、行政が公共事業で行った事例も有り、地元企業の生活再建にも繋がる）
- ・福祉避難所の課題を直視して（叫ばれているが、進展しているか？関連死が多いのは指定避難所以外への支援のあり方に課題があるのでは）

第三問 あなたは— 防災士

- ・役場から地区防災計画の策定について、指導の要請があった。
- ・既に地域防災計画やハザードマップなどが、役場で作成され、各戸配布されている。
- ・そのような中、地区計画の策定は屋上屋を重ねると感じる町民は多いように思われる。
- ・そのような中、地区防災計画を指導する？

第三問のコメント

- ・広陵町指定避難所（指定避難所のみを避難所と考えず、自宅被災者も避難者と考えて支援を）
- ・地域防災計画(自治体単位)から地区・地域に適合した地区防災計画へ（小学校単位にのみ捉われず、日頃の付き合いの中から）
- ・自助・近助・共助・公助（近所の人との付き合いから、近助へ。共助の範囲は広すぎるのでは）
- ・防災福祉コミュニティー活動・中学生によるジュニア一隊も地域全体で防災訓練（遊び心を持ち、持続する方法を）
- ・障害者も参画した支援訓練を（障害者も助ける側になる気持ちを理解して、参加型で無い、参画型に）
- ・PDCA サイクルで地区防災計画（一度作れば終わりではなく、課題を話し合い、改善を）

VIII クロスロードゲームの『記録表』と『きょうのふりかえり』 別紙参照

IX 写真 下記参照

参加した防災士の皆様



挨拶する山村町長



臨席総会であいさつする岡田誠治会長



挨拶する森田隆夫次期会長



町長・副町長も参加し、クロスロードゲームにも参加



ファシリテーターの伊藤とコメントする片瀬



コメントする片瀬

